

(様式1)

令和元年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立立花吾嬬の森小学校
校長名	横山 公一

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から (平均正答率は、別表参照)

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・5学年を除き、ほぼ全学年、全科目で目標値や全国の値と同等程度の結果が出た。やや成績が向上した。・社会、理科に関しては4学年が健闘した。高学年になると下がる傾向もあるので、現段階から思考力、表現力、知識を高める指導を行う。	<ul style="list-style-type: none">・5学年の全体的な底上げが必要である。とりわけ1組の落ち込みが大きい。引き続き、学習内容の反復、アウトプットを行っていく。・理科、高学年の実験観察の技能面で不利な数値である。学年で足並みを合わせ準備を行ったり、ICTを活用したりしながら指導を行う。・文章や情報を読んで理解する力(国語だけでなく)が、学年が進むにつれて弱くなる傾向がある。教科における思考力、判断力が不足している。情報を正しく、正確に読み取る訓練が必要である。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・自己評価や自己受容感に関しては、一クラスを除き、高い結果が出ていること。自分自身を大切にしている指導の成果と思われる。	<ul style="list-style-type: none">・学習意欲に関する結果は、456年において1組・2組で相反する結果が出ている。クラス編成上の配慮も一つの原因だが、学年全体を押し上げる指導が必要である。・自己評価と現実の成績との乖離が課題と言える。学習への動機づけ、学びへの意欲の喚起が課題。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・対話を通じた協働的な学び合いは、学年が進行するにつれて充実したものになっている。・興味のあることを見出し、主体的・探究的に取り組むことができる。・教員の意識の変化。学習規律は定着している児童に、より一層の充実感や達成感を与えたという意識が向上した。	<ul style="list-style-type: none">・対話のめあて、どの力をつけるために行うのかを指導者が明確にもち、適切な時と内容を吟味して行う必要がある。・個に応じた支援や課題の与え方。・教員一人一人の指導力の向上。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 基礎的基本的な内容の定着

- 「書く活動」全校共通のノート指導（1時間の内容を見開き2ページにまとめる）・記録、要約、発表原稿など、書く活動を充実させる。
- 「話す活動」日直スピーチ、調べ学習の発表、集会等での発表、授業中の伝え合いなどあらゆる機会を通じて自分の言葉で表現する機会を設け、表現力やアウトプットにより確かな学力の定着を目指す。
- 「読む活動」読書タイム、隙間の時間の読書、読書週間の活用、図書館司書による読書環境、読み聞かせの時間の確保（月に一度）を通じて、本に親しみ自ら本に手を伸ばす児童を育成する。
- 「朝学習の時間の設定」読解の力の弱さ克服のため、週に一度朝学習の時間を設定し、特に国語の読み問題に取り組むことにした。（専用ドリルの購入）

(2) 学んだ内容の定着

- 「わかる授業の展開」目あてや本時の到達点をはっきりした授業を展開し、児童の意欲や学力の向上を図る。授業改善プランの実施状況を管理職が把握する。
- 「ICT機器活用」具体物や動きのある動画等を提示し、授業に変化をつけ、児童にとってのわかりやすさを保証する。
- 振り返りやアウトプットする時間を必ず設けて定着を高める。（振り返りシート・東京BD等の活用）
- 家庭学習にて、学習内容を必ず触れるように取り組ませる。（宿題の課し方の統一）
- 単元テスト前の振り返りの時間を1時間設ける。単元テストの答え合わせと、再取組の徹底。
- 評価と指導内容、方法の関連性を高める。

(3) 主体的・対話的で深い学びの実現

- 授業スタンダードに則った授業の創造。課題解決型学習展開の工夫により、児童の主体性を引き出し学びあう姿を実現する。
- 生活科や総合的な学習の時間の年間計画を見直し、主体性が発揮できる授業を
- 研究主題を「心も体も元気な児童の育成」と定め、体育・食育・保健の3観点より研究を進め、児童の生活習慣の確立を保護者と連携して進めることで、主体的に学ぶ意欲や精神力、体力を持つ児童を育成する。

3 「令和2年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・数値的な目標・・・E層を0人にする。30～50%存在するD層を30%C層へ引き上げる。
- ・教科的観点からの目標・・・理科（観察実験）社会科（思考判断）を平均値5ポイント上げる。
国語の読む力、書く力の平均値を上げる。
- ・重点学年・・・現5学年の全教科における底上げ。現数値より向上させる。
現3年の全教科における底上げ。